

平成22年度 学校評価報告書

諫早市立上山小学校

1 学校教育目標

「確かな学力」と「豊かな心」と「たくましい体力」をもつ、知・徳・体の調和のとれた人間力あふれる児童の育成

2 学校経営方針

【めざす学校像】

- (1) 心豊かで秩序ある学校 (2) 活気にあふれ創意豊かな学校
(3) 家庭・地域の信頼に応える学校

【めざす児童像】

- (1) 情と思いやりにあふれる子 (2) やる気をもち自ら学び鍛える子
(3) まちがいを宝とし知恵をふくらませる子

【めざす教師像】

- (1) 精神的にゆとりのある教師
(2) 子どものよさを伸ばす指導力にあふれる教師
(3) 温かい心で子どもに接し、信頼関係を築く教師

3 重点努力事項

- (1) 学力向上のための授業改善 (2) 子どもの「聞く、話す、書く、読む」などの態度や技能の育成 (3) 心身の健康を育む教育の充実 (4) 生活指導の充実と児童理解の工夫 (5) 地域、家庭との連携

4 自己評価 〈4：十分に達成 3：概ね達成 2：やや不十分 1：不十分〉

領域	項目	質問内容	アンケート結果平均 (4段階評価)			分析及び改善策
			保護者	児童	職員	
学校 経営	教育	①教育方針や教育内容、学校や学級の様子等を保護者にわかりやすく伝えている。	3.4	3.3	2.8	学校だよりや学級通信を通して、子どもたちの学校での様子等を伝えるようにしている。学年によっては学級通信の発行にばらつきがあるので定期的に発行したい。
	目標	②子どもは、楽しく学校に行っている。	3.6	3.6	3.1	
心の教育	人権・平和教育	③学校は、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。	3.2	3.4	3.2	平和集会、人権集会の時は各学年の発達段階に応じた読み聞かせや、平和に関すること、人権に関することの学習や発表に取り組んでいる。道徳の時間の充実を図り、子どもたちに生命尊重等をさらに意識させたい。
		④学校は、子どもに生命を大切にする心を育てようとしている。	3.2	3.0	3.5	

心の教育	生活指導	⑤先生は、子どものことについての相談に親身に対応してくれている。	3. 3	3. 5	3. 3	毎月、生活指導の全体等対応・早期対応している。個別に支援が必要な子どもに対しての対応を、今後も継続して行いたい。
		⑥子どもは、社会のルールや学校のルールを守っている。	3. 2	3. 3	2. 8	
		⑦自分の子どもは学校や学級で好ましい友だち関係を持っている。	3. 5	3. 8	2. 9	
確かな学力	特色ある学校作り	⑧学校は、環境・国際理解・福祉・ボランティア等の新しい教育課題に取り組んでいる。	3. 0	3. 0	2. 6	校内研修の充実により、子どもが楽しく学習している。総合的な学習の時間の発表会等に各学年の学習内容を観望している。継続性がみられている。
	学習指導	⑨通知表は見やすく、子どもの学力や学校の生活ぶりをよく伝えている。	3. 3	3. 6	3. 1	
		⑩先生は、わかりやすい授業を工夫している。	3. 3	3. 5	3. 1	
健やかな体	保健・衛生	⑪学校は、清潔で掃除が行き届いている。	3. 0	3. 4	2. 8	掃除時間は、指導として捉えてきた。掃除用具の使い方等、学年の発達に応じた指導をさらに工夫していきたい。
信頼される学校	安全管理	⑫学校は、危険箇所・安全対策などに対する配慮を行っている。	3. 1	3. 5	3. 2	地域安全マップづくりを地域の方々、保護者と連携を図り実施した。授業参観日は保護者の要望により、年度始めに年間の予定日をお知らせし、曜日にも同じ曜日に偏らないように計画をした。P T A活動については、理事会等を通じての組織や活動についての検討を重ねている。遅刻が多い子どもに対しての指導や、子どもを親が車で送迎するなどと家庭と連携を密にしたい。
	P T A・地域との連携	⑬学校は、P T A活動に協力的である。	3. 3		2. 8	
		⑭学校は、保護者が授業を参観する機会を多く設けている。	3. 5		3. 2	
		⑮自分はP T Aに関心を持ち、P T Aの活動に協力している。	2. 8		2. 9	
		⑯自分は、しつけや基本的な生活習慣に注意を払って子供を指導している。	3. 1		2. 6	

5 学校評価全般について

- (1) 昨年度に引き続き、授業参観の曜日の設定や内容のお知らせの工夫をした。その結果、昨年度より参観者の数が増加した。
- (2) 諫早市教育委員会の研究指定を受け、職員の校内研修への意識がさらに高まり、国語科の指導を核にした聞き方や話し方のスキルを示しながらの、具体的な指導を継続することができた。
- (3) 図書館のボランティア活動、登校下校時の立哨指導等、保護者や地域の方々の協力を得ながら、地域ぐるみで子どもたちを育ててきた。また危険行為等の事例が発生した際は、すぐに職員間の共通理解、共通指導を図り、メールによる保護者への注意の呼びかけも迅速に行った。
- (4) 全校朝会での講話や各学年・学級の実態に応じた指導により、挨拶の大切さなどの指導を継続すると共に、学校便りや学級・学年便りを通じて家庭・地域での挨拶の習慣化を働きかけた。
- (5) 学校司書やボランティアと連携をし、図書館の充実を図る取り組みについてさらに充実を図った。朝の読書タイムを中心に多読運動を展開した。特に今年度は、学校図書データベース化により、貸し出しの手続きが簡素化され子どもたちの読書への関心がさらに高まった。

6 学校関係者評価

- (1) 授業参観など保護者がさらに学校に来やすくなる工夫が必要である。
- (2) 「聞く・話す」態度が育ちつつある。さらに、指導を継続していただきたい。
- (3) 学校経営の方針にあるような子どもをいかにして育てるか、保護者、地域、家庭との連携がさらに必要である。
- (4) 挨拶がよくできるようになってきたので、家庭・地域と協力して指導を継続していただきたい。
- (5) 引き続き、本に親しむ子どもを育てる工夫をしてほしい。

7 今後の学校改善へ向けて

- (1) 校内研修の充実をさらに工夫し、研究指定の中間発表会へ向けて、授業改善を図っていく。
- (2) 心のノートの有効活用や、授業参観時における道徳の授業の公開を積極的に行い、心の教育を充実させる。
- (3) のびのびタイムや昼休みの外遊びをさらに推奨し、体育の時間の指導も工夫しつつ、子どもたちの体力向上を目指す。
- (4) 生活指導面では、言葉遣い、聞く態度や発表のしかた、校舎内での過ごし方について指導改善を図る。